

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.5 TSUKUBA CIRCUIT



ST600
#71 Daiki Uehara

JP250
#71 Kiyoshi Akama

HONDA

HRC

BRIDGESTONE

MUSASHI

Arai
HELMET

YAMAMOTO

NGK
SPARK PLUGS

eif

TGK

ACTIVE
Rev and Ride It!

RK
TAKASAGO CHAIN

SUNSTAR

KRS

SIGNET

■ Mistresa RT HARC-PRO. Media Information 2018 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦 in 筑波

茨城県・筑波サーキット (1周 2.070km)
観客動員数：9,000人 (2日間合計)



ST600 クラス
#71 上原大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE

RACE1

予選：20 番手 (タイム：1分 00 秒 049) 決勝：失格

RACE2

予選：16 番手 (タイム：1分 00 秒 104) 決勝：13 位

MFJ CUP JP250 国際クラス
#71 赤間清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP

RACE1

予選：21 番手 (タイム：1分 07 秒 026) 決勝：15 位 (国際クラス 8 位)

RACE2

予選：20 番手 (タイム：1分 07 秒 057) 決勝：16 位 (国際クラス 8 位)



昭和電機では全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのゼッケンナンバーが「71」のライダーとチームを応援する 71 プロジェクトを発足いたしました。

71 プロジェクトでは、応援ツアーの開催や公式プログラムへの広報記載、応援グッズの配布、ピットウォーク時のスタンプラリーなど、様々な企画を計画しております。各クラスで#71 を付けたチーム・ライダーのご声援をよろしくお願いたします！

<http://mistresa-71.com>



JSB1000
Team KAGAYAMA
#71 加賀山 就臣 選手

J-GP2
TONE RT SYNCEDGE4413
#71 三原 壮紫 選手

J-GP3
Team P.MU 7C MIKUNI
#71 小室 旭 選手

ST600
Mistresa RT HARC-PRO.
#71 上原 大輝 選手

JP250
Mistresa RT HARC-PRO.
#71 赤間 清 選手

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2018 Round.5 TSUKUBA CIRCUIT

ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama



Mistresa RT

HARC-PRO

梅雨明けと共に迎えた灼熱のシリーズ第5戦

全日本ロードレース選手権第5戦が茨城県・筑波サーキットで開催された。今回は、土曜日に公式予選とレース1、日曜日にレース2が行われる2レース制となっており、シーズンの中でも重要な一戦となる。



前週に参加者向けの特別スポーツ走行が設けられていたが、レースウィーク初日は、関東地方は梅雨明けし、一気に真夏の陽気となる。路面温度は、50度を超え Mistresa RT HARC-PRO. の上原大輝と赤間清もマシンセットをアジャストして行く。しかし、赤間は、初日の2本目にマシントラブルが発生し、ほとんど走れずにセッションを終えることになってしまっていた。

ベストタイムがレース1の、セカンドタイムがレース2のグリッドが決まる公式予選。タイトな筑波では、グリッドが重要なだけに、2周は、いいタイムを出しておきたいところ。上原も赤間も、ベストタイムと、ほぼ変わらないタイムをマークしていた。



ST600 #71 Daiki Uehara



JP250 #71 Kiyoshi Akama

JP250 クラスは、どちらも荒れたレースとなった。レース1では、1コーナーで、レース2では第1ヘアピンでスタート直後に多重クラッシュが発生。それぞれ赤旗が提示されレースは仕切り直しとなる。レース2のアクシデント発生した際、赤間は、9番手までジャンプアップしていただけに、残念な赤旗となった。レース1では、追いつきのレースを見せ15位。レース2は、集団の後方につけラップタイムもレース1を上回っていたが、前のライダーを抜きあぐねるうちにチェッカーという展開だった。



ST600 クラスの上原は、レース1は、予選20番手グリッドから好スタートを見せ17番手につけていたが、3周目の第1ヘアピンへのブレーキングで前のライダーのインに入るうとするが、コントロールを失い転倒。前のライダーを巻き込んでしまったことで失格というリザルトになってしまう。

レース2では、レース1での反省を生かし、必ずレースを走り切ることを最低限の目標としていた。オープニングラップを16番手で終わると、2周目には、3台をかわし13番手にポジションを上げると集団のトップ争いを繰り広げる。このバトルは最終ラップまで続き、混戦をうまく切り抜けた上原は、13位でチェッカーフラッグを受けたのだった。



ST600 #71 Daiki Uehara

■上原大輝コメント

「まずは、レース1で巻き込んでしまったライダーにお詫び申し上げます。また、多くの方が応援に来たくださり、すごく励みになりました。結果で応えることができないことが不甲斐ないところですが、現実をしっかり受け止め前進して行きたいと思っています。レース2は、走り切ったことでバイクの理解度も上がったと思いますし、もっと練習して、次戦に備えます」

■赤間清コメント

「今回は、流れがあまりよくなかったですね。初日の2本目にトラブルが出てしまい、ほとんど走れずに予選では、マッピングを合わせきれずにレース1を迎えてしまいました。本来速いはずのストレートが伸びず厳しいレースでした。レース2は、よくなりましたが前のライダーを抜けないで12周を終えた感じでした。JP250は、すごくおもしろいクラスです。早くも残り2戦となりましたが、いい結果を出せるように頑張ります」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 営業推進部 sales@showadenki.co.jp